八代市で

第3回 くまもと子育てトー

紙面へのご意見、ご感想をお寄せください

〒860-85

取り上げた赤ちゃん2000人

労って

基調講演 師の 講師

山本文子さんに聞



1944年、高知市 66年、高知赤十字高等看護学院卒業 上海道大医学部付属助產婦学校卒 立中央病院、NTT高松病院な

のち」の素晴らしさなどについて聞いた。 のちって、温かいよ」と語る山本さん。助産師の仕事を通して感じてきた (KO)。「いのち」の大切さを訴えようと、全国で性をテーマにした講演活動 などを展開、子育て中の母親や思春期の子どもたちの応援を続けている。「い これまで約二千人の赤ちゃんを取り上げた高松市の助産師・山本文子さん (文化生活部・吉田紳一) 振り返って

セックスも含まれる。セッ 生きることなどいろんなこ れがち。私が言う『いのち』 とを含んだもの。もちろん とは、心、人を愛すること、 ても狭い意味にとらえら 「『命』というと、どう なぜ「命」ではなく「い クスは、いのちが生まれる のち」として子どもをとら く昨今、子育て中の親が「い っている」 教育は、生き方教育だと思 にめの大切なもの。 「子育て中は、いざ知ら 虐待事件などが目につ 私は性 前のことで精いっぱい。多 を見失っているのではない くは、産んだばかりの感動 は確かにある。でも母親は ず、母親が赤ちゃんを産ん だ時点では、いのちの認識 毎日の子育ての中では目の 「出産の感動を書きつづ

ライラしていた時、ミルク わいく思えない時もある。 一子育てで、子どもをか 私も仕事が忙しくてく

たんだな。原点に戻れたし ろう。今も子どもをたたい って何てひどい母親なのだ の母親は泣き出した。『私 の手記を読み上げたら、そ れたとき、こんなに感動し ていたところだった。産ま

は効きめがある。子どもに

?」と、八歳の娘がつぶや おちゃんは、さやちゃんち みおちゃんもあそこに隠れ の下に隠れたよ。そしたら、 いた。「さやちゃんちでか くれんぼをした時、ベッド に行ったことがあるのかな ◇お姫さまベッド

もん」と、真剣な顔で言う。

る場所があるって知ってた

れていた。私が電話口でそ いうちに、書いた内容を忘 った母親が、一年もたたな ことを教える。これが子育 ること。その時にいのちの 抱かせ、温かさを感じさせ 校高学年からやらせるべ て支援の原点になると思 き。人形じゃダメ。本物を は絶対やった方がよいと思 う。問題が起きている小学 お互いを尊重する気持ちも いいのちだと理解すれば、 る。生まれなければよかっ たいのちというのはない。

ん抱かせる運動。というの

ちの話はすべてにつなが

人ひとりがかけがえのな

戻すには 一親と子のきずなを取り 「授乳している時の写直



は子どもの心に深い傷を残 は『本当は産みたくなかっ でも、親が絶対に言っては は、親なら誰にでもある。 のような気持ちを持つこと に』と思った時もある。そ ったら、私はもっと楽やの もある。『あんたがいなか いけない言葉がある。それ ルクを口に突っ込んだこと を飲まない子どもに『どうとっては親とのつながりが 「子育て支援で"赤ちゃ もがかわいく思えなくなっ 分かるし、親にとっても、 めておくこともよい。子ど る。感動の気持ちを書きと ちを振り返ることができ たときの気持ちを振り返っ 振り返るチャンスを作って たときに、子どもが生まれ なか振り返る余裕がない。 てみる。子育て中は、なか ことの大切さは めくことが大事だと思う」 ーいのちについて考える 「出産だけでなく、いの